



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年2月9日

上場会社名 株式会社タクマ 上場取引所 東
 コード番号 6013 URL <https://www.takuma.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 南條 博昭
 問合せ先責任者(役職名) 経営企画本部 (氏名) 小林 寛幸 (TEL) 06-6483-2602
 広報・IR部長
 四半期報告書提出予定日 2022年2月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	93,679	△11.3	5,306	△36.5	5,907	△34.0	4,080	△38.5
2021年3月期第3四半期	105,584	16.2	8,359	36.9	8,954	34.1	6,635	28.8

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 4,225百万円(△41.1%) 2021年3月期第3四半期 7,178百万円(43.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	50.22	—
2021年3月期第3四半期	81.73	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	171,392	92,080	53.5
2021年3月期	177,741	90,555	50.7

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 91,649百万円 2021年3月期 90,142百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	18.00	—	18.00	36.00
2022年3月期	—	18.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	18.00	36.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	135,000	△8.0	9,700	△7.4	10,300	△6.6	7,300	△3.0
								89.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

当社は、2022年2月9日開催の取締役会において、自己株式の取得について決議いたしました。連結業績予想の「1株当たり当期純利益」については、当該事項による影響を考慮していません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、添付資料の11ページ「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

詳細は、添付資料の11ページ「会計方針の変更」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2022年3月期3Q	83,000,000株	2021年3月期	83,000,000株
2022年3月期3Q	1,721,299株	2021年3月期	1,780,446株
2022年3月期3Q	81,255,457株	2021年3月期3Q	81,189,531株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料の6ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	11
(会計方針の変更)	11
(セグメント情報)	13
3. 予想補足資料	14
(1) セグメント別連結業績予想	14
(2) 連結設備投資額、減価償却費及び研究開発費予想	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。詳細については、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご参照ください。

(1) 経営成績に関する説明

(単位：百万円)

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間				前年同期比増減額		
	受注高	売上高	営業損益	受注残高	受注高	売上高	営業損益
環境・エネルギー(国内)事業	86,795	75,880	5,975	388,058	△49,073	△11,252	△2,972
環境・エネルギー(海外)事業	1,510	690	△141	1,247	1,120	△294	△68
民生熱エネルギー事業	13,409	11,876	441	6,054	△376	109	131
設備・システム事業	6,945	5,706	565	6,588	△355	△346	△206
計	108,662	94,154	6,840	401,949	△48,683	△11,783	△3,115
調整額	△206	△474	△1,534	△20	321	△121	61
合計	108,455	93,679	5,306	401,929	△48,362	△11,905	△3,053

当社グループの当第3四半期連結累計期間における経営成績は、主に環境・エネルギー(国内)事業の減少により受注高は前年同期に比べ48,362百万円減少の108,455百万円、売上高は11,905百万円減少の93,679百万円となりました。

損益面においては、主に環境・エネルギー(国内)事業の減益により、前年同期に比べ営業利益は3,053百万円減少の5,306百万円、経常利益は3,046百万円減少の5,907百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,554百万円減少の4,080百万円となりました。

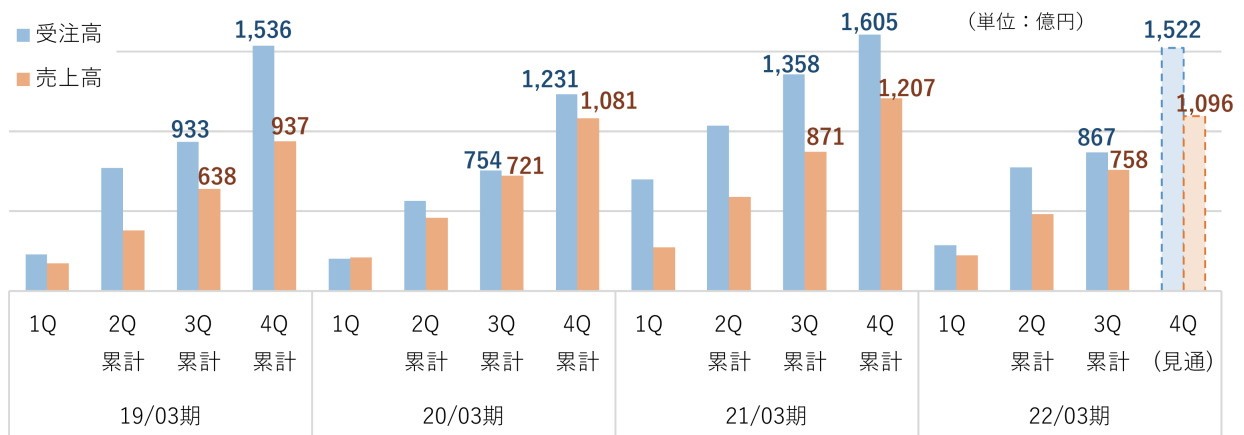
なお、新型コロナウイルス感染症による先行きの不透明感から、一部において、設備投資意欲の減退や計画延期等の影響も見られ、また、鋼材をはじめとする資機材価格の上昇など先行きに留意が必要な状況となっております。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

[環境・エネルギー(国内)事業]

当第3四半期連結累計期間においては、引き続き堅調な需要の獲得に努め、ごみ処理プラントのDBO事業(建設・運営事業)1件、長期O&M1件、バイオマス発電プラントの建設工事2件、産業廃棄物処理プラントの建設工事1件、下水処理場向け砂ろ過設備の大型更新工事1件などを受注しましたが、過年度に受注したプロジェクト1件について計画中止による契約解除があったこともあり、受注高は比較的大型の案件受注が多かった前年同期※に比べ49,073百万円減少の86,795百万円となりました。また、主にEPC事業における案件構成の変化により、売上高は前年同期に比べ11,252百万円減少の75,880百万円、営業利益は2,972百万円減少の5,975百万円となりました。

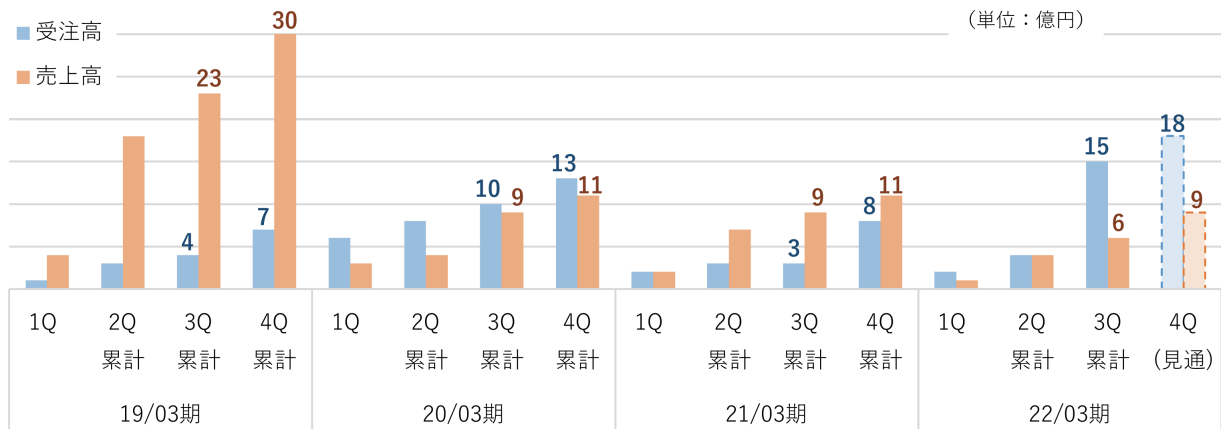
※ 前年同期の主な受注：ごみ処理プラントのDBO事業(建設・運営事業)を含む新設工事3件、基幹改良工事2件、長期O&M1件、バイオマス発電プラントの建設工事1件、下水汚泥焼却発電プラントの建設工事1件など



[環境・エネルギー(海外)事業]

当第3四半期連結累計期間においては、台湾において廃棄物発電プラントの設備更新工事1件を受注し、受注高は1,120百万円増加の1,510百万円となりました。

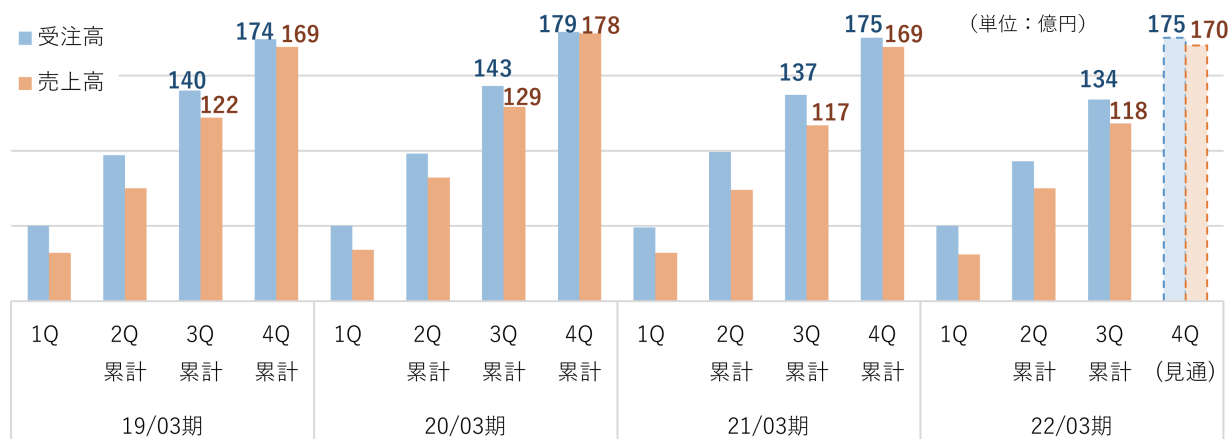
一方、バイオマス発電プラント新設案件の売上計上があった前年同期に比べ、売上高は294百万円減少の690百万円、営業損失は前年同期の73百万円から141百万円となりました。



[民生熱エネルギー事業]

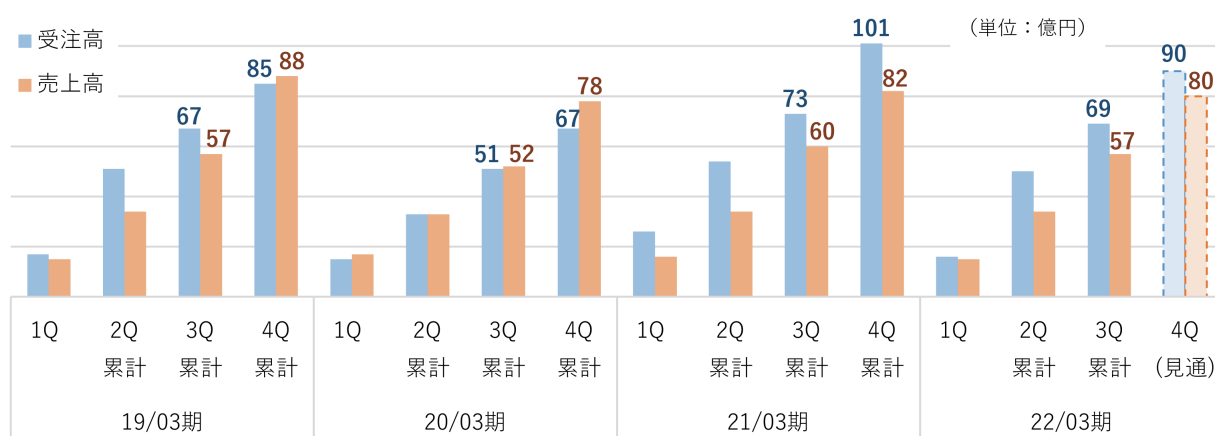
新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ需要は、一部回復の兆しも見られましたが、緊急事態宣言・まん延防止等重点措置の断続的な発出や、感染再拡大への懸念など先行きの不透明感から、当第3四半期連結累計期間においては本格的な回復には至りませんでした。

このような状況の下、引き続き需要の獲得に努めた結果、受注高は大型案件の受注が多かった前年同期に比べ376百万円減少の13,409百万円となったものの、売上高は109百万円増加の11,876百万円、営業利益は131百万円増加の441百万円となりました。



[設備・システム事業]

当第3四半期連結累計期間においては、拡大基調にある市場環境を受けて半導体産業用設備は堅調に推移したものの、新型コロナウイルス感染症の影響により民間向けの建築設備工事において計画延期等の影響が見られ、受注高は前年同期に比べ355百万円減少の6,945百万円となりました。また、建築設備事業における資機材の納期長期化等の影響もあり、売上高は前年同期に比べ346百万円減少の5,706百万円、営業利益は206百万円減少の565百万円となりました。



なお、新型コロナウイルス感染症による先行きの不透明感から、一部において、設備投資意欲の減退や計画延期等の影響も見られており、当第3四半期連結累計期間までの実績および足元の事業環境等を踏まえ、2022年3月期の業績予想を修正しております。詳細は「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照願います。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は171,392百万円と前連結会計年度末に比べ6,349百万円の減少となりました。これは主に、現金及び預金が4,846百万円の増加、棚卸資産が3,288百万円の増加となったものの、受取手形、売掛金及び契約資産が18,037百万円の減少となったことによるものであります。

負債は79,311百万円と前連結会計年度末に比べ7,874百万円の減少となりました。これは主に、短期借入金が5,302百万円の減少となったことによるものであります。

純資産は92,080百万円と前連結会計年度末に比べ1,525百万円の増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等により利益剰余金が1,303百万円の増加となったことによるものであります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は53.5%と前連結会計年度末に比べ2.8ポイントの増加となりました。

なお、当第3四半期連結会計期間末の財政状態において、新型コロナウイルス感染症による重要な影響は見られておりません。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

【通期受注・売上見通し】

(単位：億円)

	期首計画 (①)		直近見通し (②)		差異 (②-①)	
	受注高	売上高	受注高	売上高	受注高	売上高
環境・エネルギー(国内)事業	1,515	1,100	1,522	1,096	+ 7	△ 4
環境・エネルギー(海外)事業	30	5	18	9	△ 12	+ 4
民生熱エネルギー事業	180	180	175	170	△ 5	△ 10
設備・システム事業	80	90	90	80	+ 10	△ 10
計	1,805	1,375	1,805	1,355	-	△ 20
調整額	△ 5	△ 5	△ 5	△ 5	-	-
合計	1,800	1,370	1,800	1,350	-	△ 20

老朽化したごみ処理プラントの更新や延命化対策、エネルギー政策を背景としたバイオマス発電プラントの建設など当社グループの主要製品には引き続き需要が見込まれております。一方で、新型コロナウイルス感染症の感染者数は一時的に減少の傾向にありましたが、新たな変異株の感染増加など、先行き不透明な状況が継続しております。

このような状況の下、当社グループの2022年3月期の業績につきましては、受注高は引き続き期首計画の180,000百万円を見込んでいるものの、新型コロナウイルス感染症による先行きの不透明感から、一部において、設備投資意欲の減退や計画延期等の影響が見られることから、売上高は135,000百万円と従前の予想を下回る見通しです。また、損益面では、売上高減少の影響に加え、鋼材をはじめとする資機材価格の上昇などにより、当初目標としていたほど原価低減が進まない見込みであることなどから、営業利益が9,700百万円、経常利益が10,300百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が7,300百万円といずれも従前の予想を下回る見通しです。

当社グループでは、通常の事業形態として、納期が連結会計年度末直前となる工事が多く、第4四半期にかけて進捗、引渡しが多くなる傾向にあり、業績においても第4四半期での売上高が他の四半期と比較して大きくなるなど季節的変動が大きいことから、業績管理については年次のみで行うこととしております。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響が今後さらに拡大・長期化した場合には、需要減退・発注延期に伴う新規受注の減少、受注済案件の納期延長に伴う売上の減少等の影響が生じる可能性があります。現時点では上記の見通しには織り込んでおりません。影響拡大により業績予想の修正が必要となった場合には、適時に開示してまいります。

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	44,422	49,268
受取手形及び売掛金	84,222	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	66,185
棚卸資産	4,465	7,753
その他	1,962	5,716
貸倒引当金	△16	△15
流動資産合計	135,056	128,909
固定資産		
有形固定資産	9,759	10,345
無形固定資産	267	277
投資その他の資産		
投資有価証券	17,740	17,515
その他	15,058	14,480
貸倒引当金	△142	△134
投資その他の資産合計	32,657	31,860
固定資産合計	42,685	42,483
資産合計	177,741	171,392

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	30,717	31,854
電子記録債務	13,184	16,581
短期借入金	5,602	300
未払法人税等	2,569	113
前受金	9,349	—
契約負債	—	10,351
賞与引当金	3,364	2,040
製品保証引当金	66	65
工事損失引当金	3,946	2,039
関係会社整理損失引当金	1,003	—
その他	6,354	4,318
流動負債合計	76,157	67,665
固定負債		
長期借入金	80	20
役員退職慰労引当金	241	231
退職給付に係る負債	10,451	10,937
その他	256	457
固定負債合計	11,029	11,645
負債合計	87,186	79,311
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,367	13,367
資本剰余金	3,840	3,872
利益剰余金	70,850	72,153
自己株式	△2,087	△2,017
株主資本合計	85,970	87,375
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,461	4,440
繰延ヘッジ損益	36	60
為替換算調整勘定	30	63
退職給付に係る調整累計額	△355	△291
その他の包括利益累計額合計	4,172	4,273
非支配株主持分	412	431
純資産合計	90,555	92,080
負債純資産合計	177,741	171,392

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	105,584	93,679
売上原価	85,481	76,545
売上総利益	20,103	17,133
販売費及び一般管理費	11,743	11,827
営業利益	8,359	5,306
営業外収益		
受取利息	16	13
受取配当金	430	424
持分法による投資利益	149	119
その他	132	156
営業外収益合計	729	714
営業外費用		
支払利息	10	4
コミットメントフィー	21	21
固定資産処分損	81	55
その他	21	31
営業外費用合計	135	112
経常利益	8,954	5,907
特別利益		
受取保険金	—	300
投資有価証券売却益	1,002	80
特別利益合計	1,002	380
特別損失		
新工場建設関連費用	—	255
関係会社整理損失引当金繰入額	882	—
その他	105	—
特別損失合計	988	255
税金等調整前四半期純利益	8,968	6,032
法人税等	2,309	1,920
四半期純利益	6,658	4,112
非支配株主に帰属する四半期純利益	23	31
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,635	4,080

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	6,658	4,112
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	464	△21
繰延ヘッジ損益	△24	24
為替換算調整勘定	6	45
退職給付に係る調整額	74	64
その他の包括利益合計	520	113
四半期包括利益	7,178	4,225
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,154	4,182
非支配株主に係る四半期包括利益	23	43

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、重要性が増したことから、(株)アイメット、エナジーメイト(株)、かしはらハイトラスト(株)及びびうわじまハイトラスト(株)を連結の範囲に含めております。また、第2四半期連結会計期間より、新たに設立した函館ハイトラスト(株)を連結の範囲に含めております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

① 原価差異の繰延処理

季節的に変動する操業度により発生した原価差異は、原価計算期間末までにほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産(その他)として繰り延べております。

② 税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、工事契約に関して、従来は、工事の進捗部分について成果の確実性が認められる場合には、工事進行基準によっておりましたが、財又はサービスに対する支配が顧客に一定の期間にわたり移転する場合には、財又はサービスを顧客に移転する履行義務を充足するにつれて、一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。履行義務の充足に係る進捗度の見積りは、各報告期間の期末日までに発生した工事原価が、予想される工事原価の合計に占める割合に基づいて行っております。なお、契約における取引開始日から完全に履行義務を充足すると見込まれる時点までの期間がごく短い工事契約については代替的な取扱いを適用し、一定の期間にわたり収益を認識せず、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高への影響もありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示し、また、「流動負債」に表示していた「前受金」は、第1四半期連結会計期間より「契約負債」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	環境・ エネルギー (国内)事業	環境・ エネルギー (海外)事業	民生熱 エネルギー 事業	設備・ システム 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	86,874	982	11,729	5,997	105,584	—	105,584
セグメント間の内部売上高 又は振替高	259	2	36	55	353	△353	—
計	87,133	984	11,766	6,052	105,937	△353	105,584
セグメント利益又は損失(△)	8,947	△73	309	771	9,956	△1,596	8,359

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△1,596百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,710百万円及びその他の調整額114百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	環境・ エネルギー (国内)事業	環境・ エネルギー (海外)事業	民生熱 エネルギー 事業	設備・ システム 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	75,453	687	11,850	5,687	93,679	—	93,679
セグメント間の内部売上高 又は振替高	426	3	26	18	474	△474	—
計	75,880	690	11,876	5,706	94,154	△474	93,679
セグメント利益又は損失(△)	5,975	△141	441	565	6,840	△1,534	5,306

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△1,534百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,655百万円及びその他の調整額120百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 予想補足資料

(1) セグメント別連結業績予想

(単位：百万円)

セグメントの名称	2022年3月期(予想)		
	受注高	売上高	受注残高
環境・エネルギー(国内)事業	152,200	109,600	419,743
環境・エネルギー(海外)事業	1,800	900	1,327
民生熱エネルギー事業	17,500	17,000	5,021
設備・システム事業	9,000	8,000	6,348
計	180,500	135,500	432,441
調整額	△500	△500	△288
合計	180,000	135,000	432,152

(2) 連結設備投資額、減価償却費及び研究開発費予想

(単位：百万円)

	2021年3月期(実績)	2022年3月期(予想)	増減
設備投資額	2,420	4,000	1,579
減価償却費	1,036	1,000	△36
研究開発費	1,047	1,400	352